

がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

相談記録シート集計報告

実施期間：令和4年1月1日～令和4年3月31日

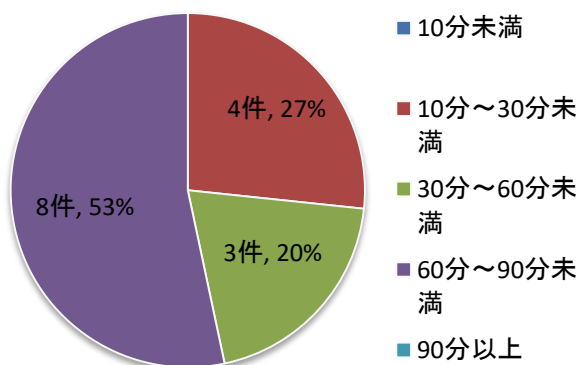
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

■ 調査対象期間 令和4年1月1日～令和4年3月31日

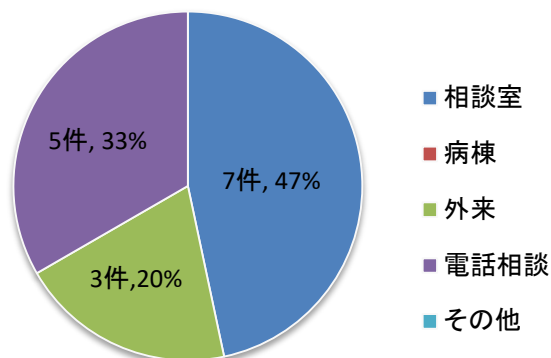
■ 調査件数 15 件

相談月	件数
1月	5
2月	4
3月	6
合計	15

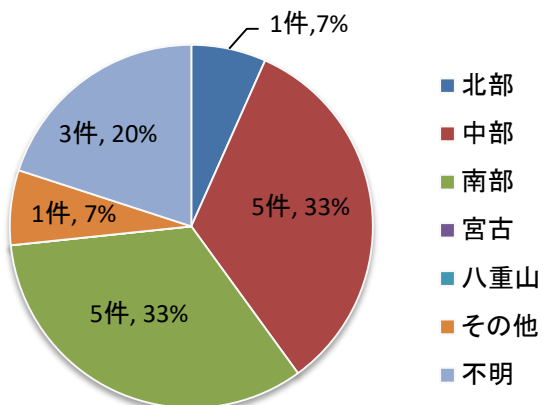
相談時間



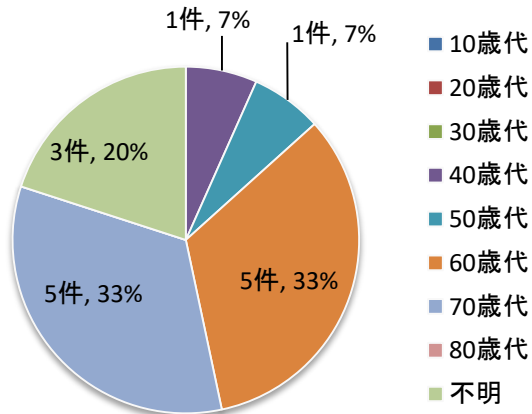
相談形式



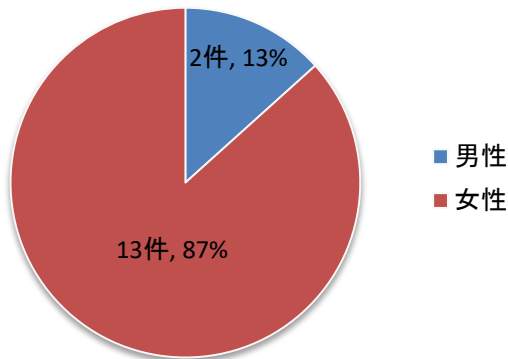
住居エリア



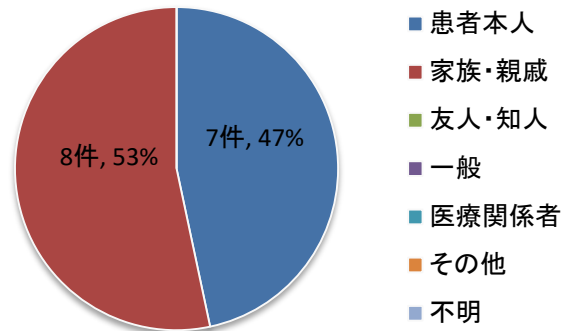
相談者の年代



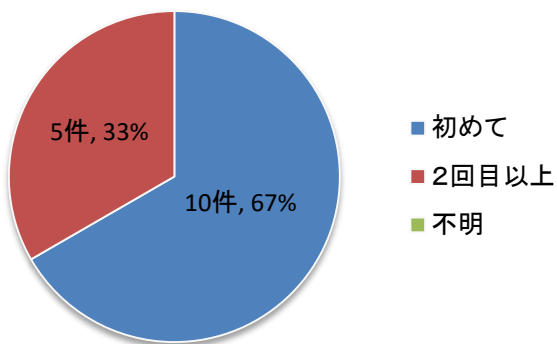
相談者の性別



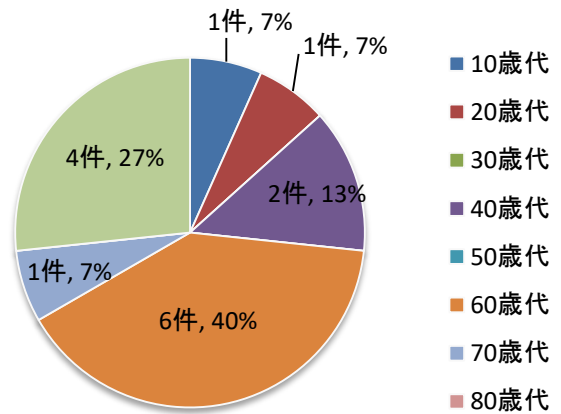
相談者のカテゴリー



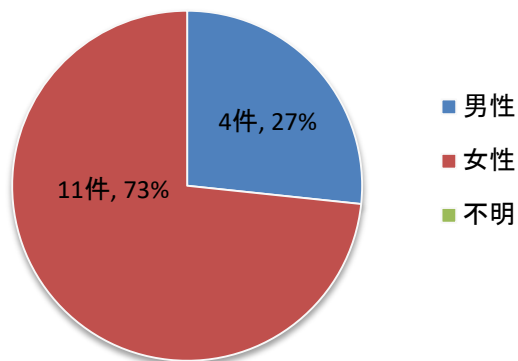
相談者の利用回数



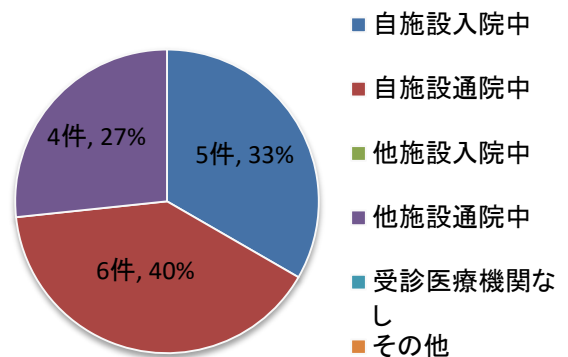
患者本人の年代



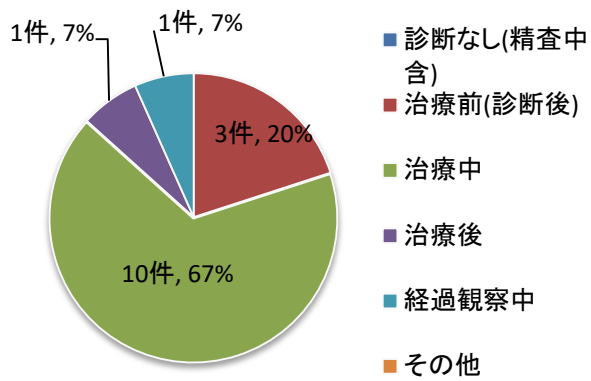
患者本人の性別



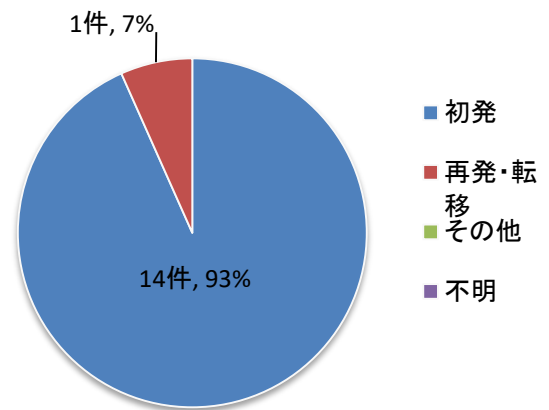
受診状況



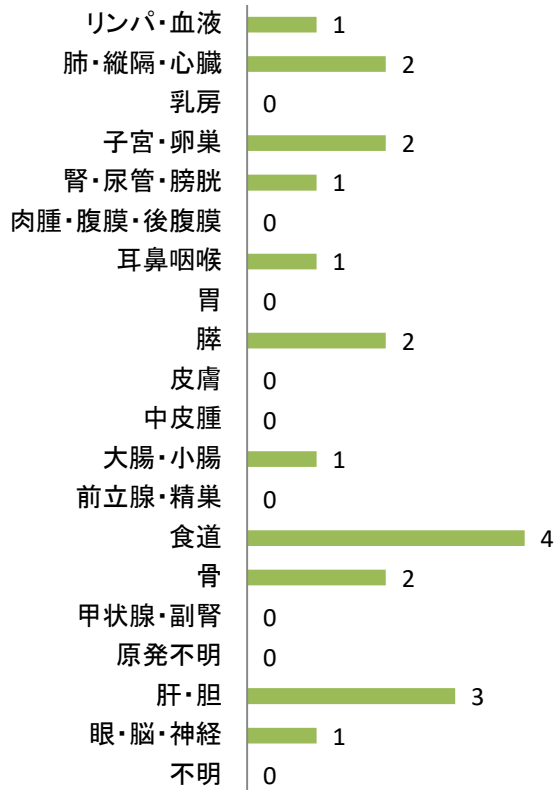
現在の治療状況



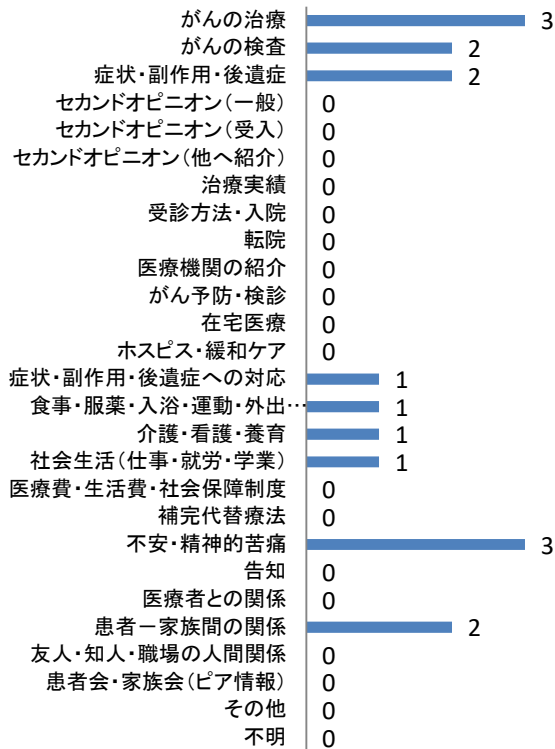
がんの状況



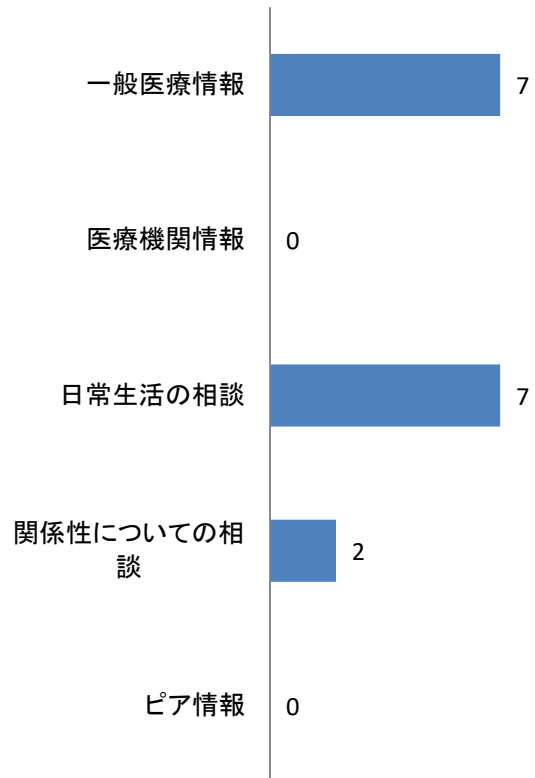
がんの部位



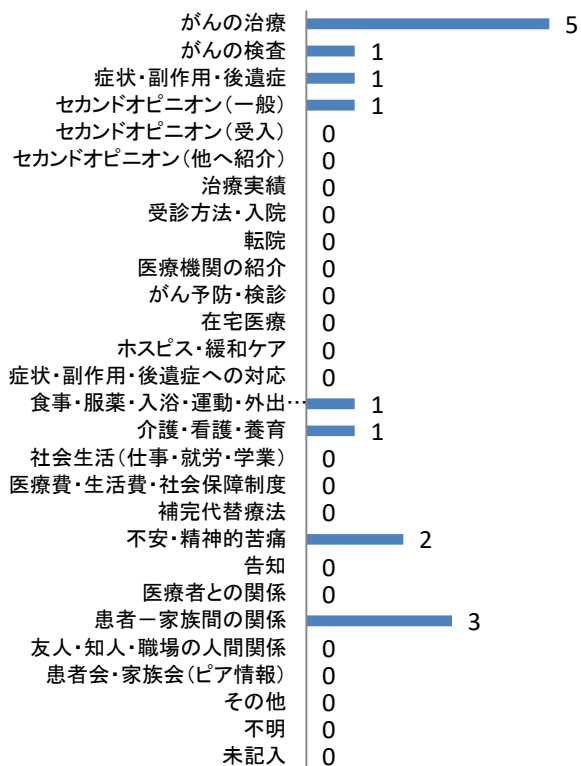
相談内容 (実施したものすべて)



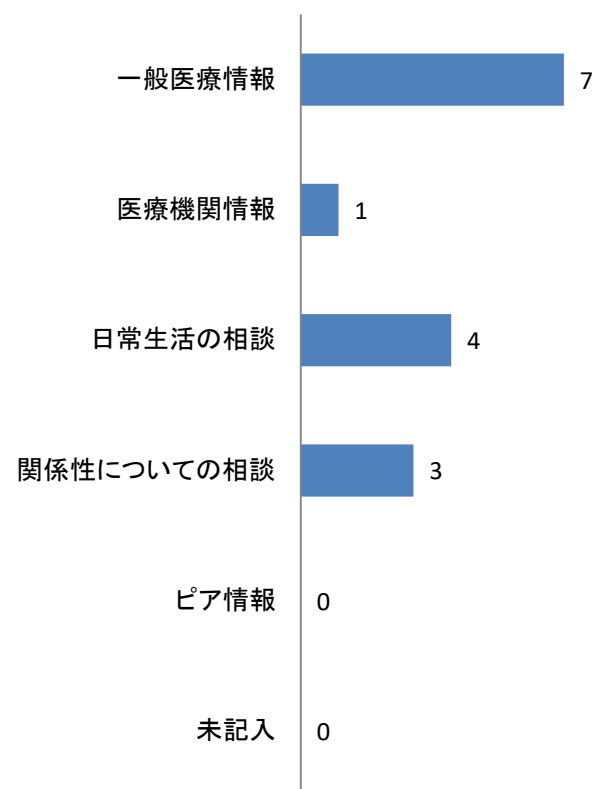
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



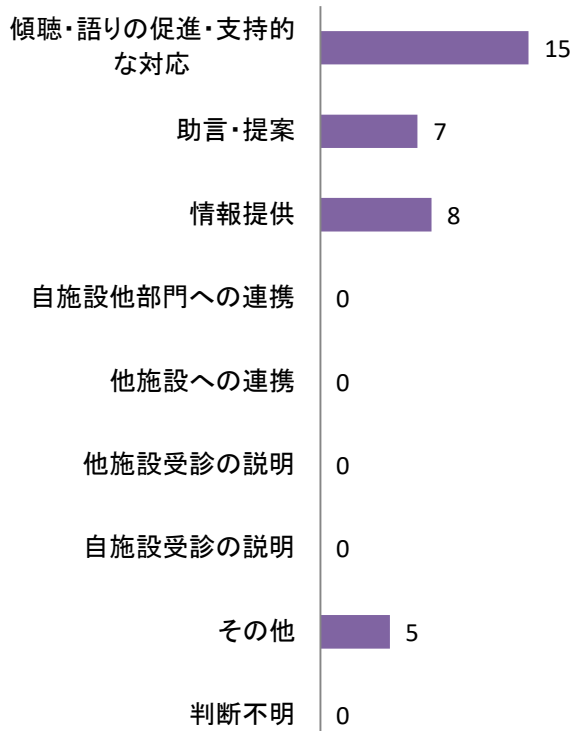
相談内容 (最も比重の高いもの)



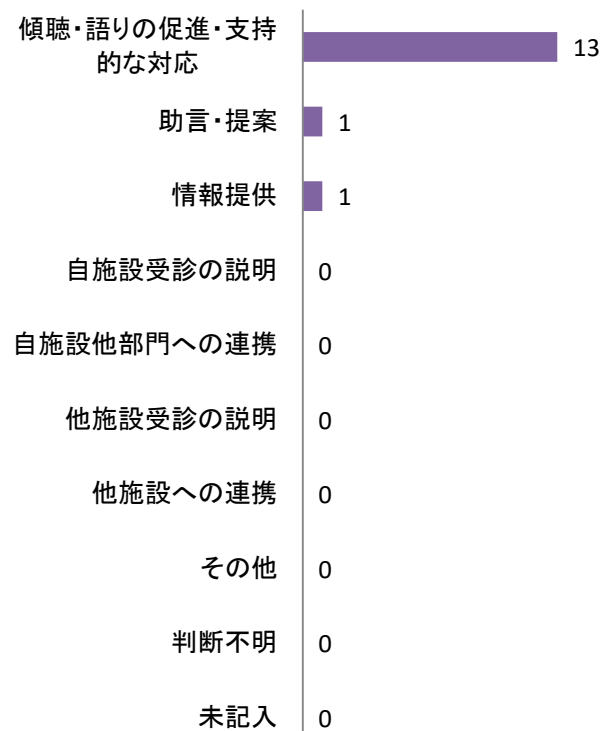
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



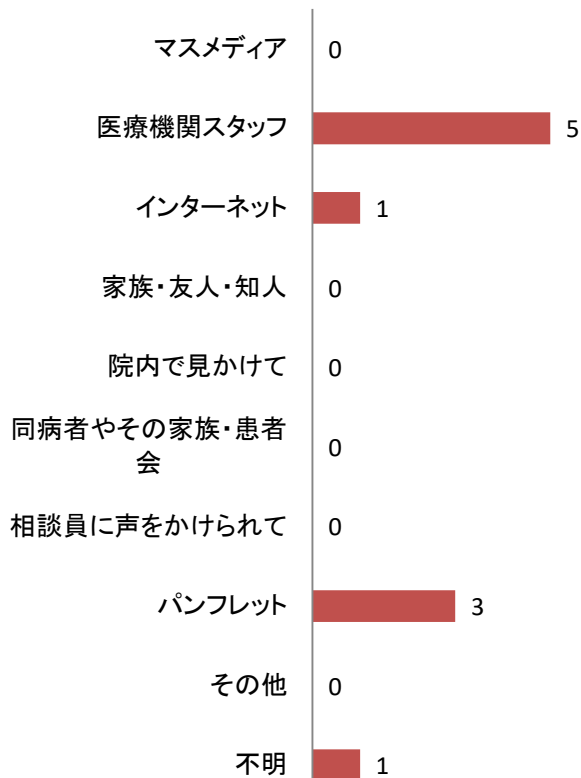
対応内容 (実施したもののすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路



がんピアサポーター養成講座

開催報告

実施日：令和4年1月22日（土）

【名称】

令和3年度 がんピアサポーター養成講座

【目的】

- ①これから「ピアサポート」を始める方が、1対1での対応に関する基本な事項を学ぶ。
- ②受講生同士に仲間意識を持ち、今後のセンター及び個々の活動が互いに連携できる環境をつくり、コミュニケーション技術向上を目的とする。

【概要】

1. 日時 令和4年1月22日（土）12：40～16：45
2. 形式 オンライン（ZOOM） 事務局：琉球大学病院がんセンター内
3. 対象 下記①～⑤すべてに該当する方
 - ①がん患者およびがん患者のご家族、ご遺族
 - ②最終治療後2年以上が経過し、現在病状の安定している方
 - ③事前学習プログラム（講義動画）を視聴できる方
 - ④講義ならびにロールプレイ（面接技法）参加出来る方
 - ⑤受講後は治療や仕事、生活に支障がない範囲で当センターの
がんピアサポーター（ボランティア）として登録し活動できる方
4. 主催 沖縄県地域統括相談支援センター（令和3年度 沖縄県委託事業）
5. 参加費 無料
6. プログラム
 - <動画視聴> 講義動画（受講前までに学習プログラムを視聴し、事前課題を提出）
厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
「ピアサポーター養成テキスト2019年度版」のテキスト等に準拠し、
神奈川県がん患者団体連合会より、ご提供頂いた動画を使用。
 - <講義> 「私たちの目指すピアサポート」とは
沖縄県地域統括相談支援センター がんピアサポーター 中山 富美
 - <研修会> 「より良いサポートのためにロールプレイによる実践的トレーニング」
NPO法人 支え合う会「α」
副理事長 野田 真由美

【プログラム別内容】

私たちの目指すピアサポートとは

- ・ 沖縄県地域統括相談支援センター発足理由と経緯、また当センターの活動概要等について学び、養成講座終了後の実践に役立てる。

ピアサポートとは

- ・ ピアサポートの定義、重要性、意義、活動内容や活動場所などを学ぶ。
- ・ 自分の意見を押し付けない、個人情報を守る、医療行為に踏み込まないなどのピアサポートを行うにあたって、最低限知っておいてほしいことや、必ず守ってほしいことを学ぶ。

より良いコミュニケーションのために

- ・ 服装や言葉使いなど接遇の基本的なことから、話しやすい雰囲気作り、相談者の目線や表情、仕草から読み取れること等を学ぶ。

自分の体験を語る

- ・ ピアサポート時に自身のことを話す場合もあることから、自己の体験を語れるように整理する。
- ・ 他の受講生が語っている内容を聴くことで傾聴を学ぶ。

がんの基礎知識

(事前学習プログラム動画/厚生労働省委託事業がん総合相談に携わる者に対する研修事業。神奈川県がん患者団体連合会)

- ・ 相談者の話を聴く際に知っておくと役に立つ医学的知識を学ぶ。
- ・ がん診療の流れ、がんの基本的知識と情報提供の注意点など。

ロールプレイ

- ・ 事前学習プログラム動画や当日の講義に学んだことを実践のロールプレイで学び、良い面も悪い面も全員で情報共有することで個々の対応に活かす。

オンラインでのピアサポート活動における注意点

- ・ 昨今の新型コロナウイルス感染症に伴い、対面での相談に制限がかかる状況。人との繋がりには様々なツールを活用する事が出来る。オンラインでのデメリットやメリットを学び、自身のピアサポート活動に役立てる。

【参加者：本島地区】 7 名参加

	名 前	備 考
1	男性	・福祉職（児童） ・ピアサポート経験なし
2	女性	・ピアサポート経験なし
3	男性	・がん患者会
4	女性	・ピアサポート経験なし
5	女性	・福祉職 ・ピアサポート経験なし
6	女性	・看護師 ・がん患者会
7	女性	・がん患者会

【参加者：本島離島町】 1 名参加

	名前	備 考
8	女性	・福祉職 ・ピアサポート経験なし

計人数： 8 名

【講師・スタッフ】

名前	所属	担当
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 ・神奈川県がん患者団体連合会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター養成テキスト 2019年度版のテキスト ・一般社団法人 神奈川県がん患者団体連合会 	講義動画提供
野田 真由美 様	NPO 法人支えあう会「α」副理事長	研修会講師 アドバイザー
増田 昌人	沖縄県地域統括相談支援センター センター長	責任者
仲田 ひろ子	沖縄県地域統括相談支援センター 相談員	講師及びロールプレイ ファシリテーター
中山 富美		
西村 克敏		
上地 久美子		
仲嶺 いずみ	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員	担当者／記録等

【タイムスケジュール】

開始	終了	時間	内 容	講師・担当者
11:30	12:15	45分	事務局は琉大へ集合・打合 オンライン（ZOOM）準備	* 講義内容確認
12:15	12:40	25分	オンライン（ZOOM） 受付開始	受講者名簿確認・ZOOM 状況確認
12:40	12:43	3分	開会のあいさつ	沖縄県地域統括相談支援センター センター長 増田 昌人
12:43	12:58	15分	自己紹介 （講師・センター長・ファ シリテーター・受講生）	
13:00	13:10	10分	講義 「私たちの目指すピアサ ポート」とは	沖縄県地域統括相談支援センター がんピアサポーター 中山 富美
13:10	13:15	5分	休憩	
13:15	13:55	40分	自分の体験を語る	受講生 8名
13:55	14:15	20分	ロールプレイ（導入）	NPO 法人支えあう会「α」 副理事長 野田 真由美 氏
14:15	14:35	20分	ロールプレイ 第1セッション	
14:35	14:40	5分	休憩	
14:40	15:00	20分	ロールプレイ 第2セッション	
15:00	15:05	5分	休憩	
15:05	15:25	20分	ロールプレイ 第3セッション	
15:25	15:33	8分	グループ毎に振り返り	
15:35	16:10	35分	全体の振り返り ロールプレイの講評 オンライン相談の注意点	アドバイザー 野田 真由美氏 ファシリテーター 仲田・中山・西村・上地
16:10	16:45	35分	事前学習における質疑や 講座を受けての質疑応答	司会：西村 克敏
16:45	16:50	5分	受講修了書（後日郵送） 閉会のあいさつ	センター長 増田 昌人

【参加者数】

受講者：8名

【振り返り】

- ・オンラインでの開催であったが、受講者、事務局側も大きなトラブルなく無事に終えることができた。
- ・今回、がんピアサポートにおける基礎知識について事前学習プログラム（動画）で復習し、当日はロールプレイ（模擬相談演習）を中心に研修会を行った。各グループ（ブレイクアウトルーム）に分かれ、ピアサポーター、利用者、観察者をそれぞれ演じてもらい、当事者の立場だけでなくそれぞれの役を通して感じたことや相談者へ何か答えを出してあげたいという気持ちなど、ピアサポート（模擬相談演習）について学ばれていました。受講者には複数名患者会の方も参加されており、これまで実践してきた事が正しいのか、また、自分の気持ちとの向き合い方などを学習されていた。サポートを行う際の音量や言葉の速度などに気を配り、伝える事を注視したり、感情（泣いてしまう場面）もみられ、ピアサポートの難しさを痛感したものの、必要性・重要性を改めて感じたとの感想が聞かれた。
- ・今回の講座は千葉県の講師と Web で繋ぎ開催をした。講師からの意見としては、研修時間（タイムスケジュール）に少しゆとりを持たせ、昼食を挟んで午前中から開催してもよいのではとのアドバイスを頂いた。次年度は昼食時間も挟みながら、午前中から開催し、夕方は早めに切り上げるスケジュールの提案が聞かれた。開催前までに何度か、打ち合わせを行ったことでスムーズに会を進める事ができた。

【反省点/今後の課題】

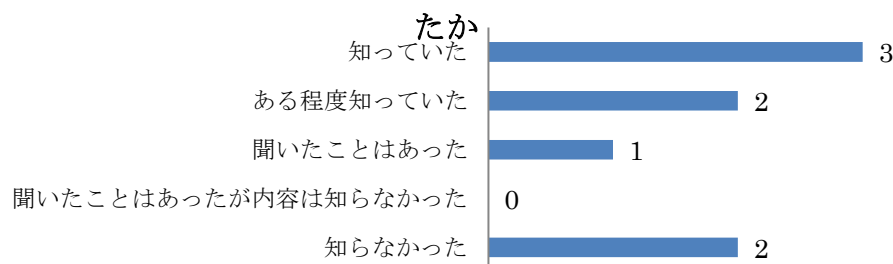
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、オンラインでの開催となり、タイトなタイムスケジュールとなった為、開催方法としてハイブリット式での開催や、受講者同士での交流、講師やファシリテーターとの情報交換ができる時間を設けていきたい。
- ・今年度もがん診療を行う県内医療機関、行政機関（社協含む）などへの案内文書を発送し、参加を募った。離島（久米島町）からの参加もあり、オンラインのメリットが活かされた講座となった。しかし参加人数が少ないことは否めない。今後は事業周知方法（講座案内）について、ホームページや案内文書だけではなく、登録サポーターからの情報収集や患者会との情報共有も密に図り、当センターの事業周知などを行っていく。

【アンケート集計結果／回答者 8 名】

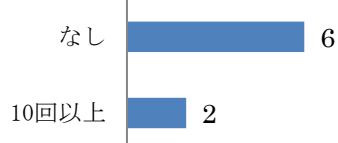
Q1. 養成講座に参加したきっかけ

- ・小児がんの親で経験した事や脊髄損傷での経験をピアサポートに活かすため参加。
- ・友人がピアサポーターとして活動しており、同じ体験をした方の力になりたいと感じた事がきっかけです。ピンクリボンアドバイザーの資格をもっている事もきっかけのひとつです。
- ・ピアサポーターの制度を知り、自身の体験が活かされればとの思いから参加。
- ・約3年間の長男との闘病生活。高校生という夢を実現していくための準備期間である時に、予後が悪いという癌。様々な事があって乗り越えられた事、乗り越えられなかった事もありました。同じような思いで頑張っている人がいるかもしれない。家族も頑張っているはず。何かの助けになれないだろうかと思い参加しました。
- ・乳がん患者会からのお知らせで知りました。
- ・患者会を運営している立場から、今後サロン参加者へピアサポーターを依頼することを検討しております。その上でピアサポーターとしての心構えや注意していく事など、知っておく必要があると思い、参加しました。
- ・沖縄県がん患者会の久米島フォーラムに初回から関わらせて頂いたり、公立病院での勉強会に参加させて頂く機会があり、久米島でのサロン立上げの準備として必要だと思い受講した。
- ・「やってみたい」という気持ちで参加しました。

Q2.ピアサポート活動（またはピアサポーター）を知っているか



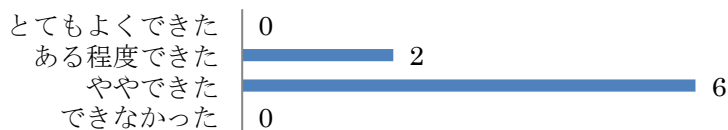
Q3.ピアサポート歴



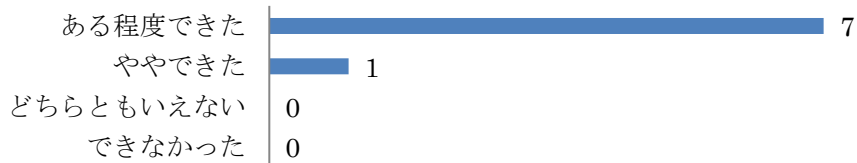
**Q 4. 「私たちの目指すピアサポート」とは
内容は理解できたか**



Q 5. 「自分の体験を語る」では、自分なりに語れたか

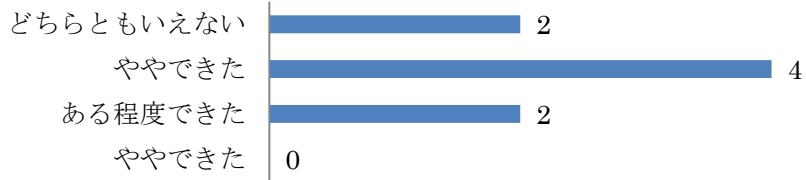


**Q 6. 講義「ロールプレイ」についての内容は
理解できましたか**



- ・講師も分かりやすく話して頂いたので良かった。
- ・参加者の雰囲気や進め方が良かった。
- ・表現や言葉かけの仕方が勉強になった。
- ・ロールプレイについてはある程度理解出来、グループメンバーからアドバイスを頂いた事で気づきがあった。しかし実際に患者の相談への対応が出来るまでには時間を要すると思う。
- ・ある程度理解が出来ました。実際の雰囲気や表情がわからないのが残念です。
- ・ロールプレイで、少しいメージはつかめましたが、シナリオの相談と実際の相談では違いがあると感じること、対面ではなく画面越しの対応の難しさも感じました。表現の大切さ、声かけを意識したいと思っています。
- ・事前に資料の配布があり予習出来た事や、講師の懇切な説明があったこともあり、ある程度理解することができたと思っています。
- ・やってみようという気持ちを奮い立たせることができた。
- ・障害者団体に所属しているので、年に数回ロールプレイに参加することがあります。

Q 7. ロールプレイでは自分なりにできましたか



Q 8. ロールプレイを通してのご感想

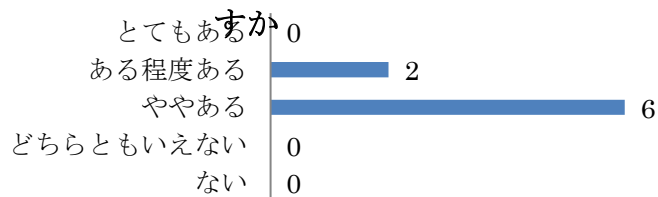
- 時間やピアサポーターとして、意識しすぎてしまい、うまく表現できなかったように思いました。しかしピアサポーター役では普段行っている傾聴（医療者として）ではない、患者に近い立場での傾聴を感じ取ることが出来たように思います。大変勉強になったと思います。
- 自分を美化している感じがあったが、綺麗にまとめようという気持ちではなく、傾聴するという事、その重要性がとても分かったロールプレイでした。
- ロールプレイを通して感じたことは、相談者の話を聞いていて辛くなったらギブアップしていいと思いました。
- 利用者、ピアサポーター、観察者それぞれの役柄を演じることが出来良かった。
肝心のピアサポーター役については満足のいく役を演じることが難しく、経験を積まなければと強く思った。
- 寄り添う傾聴を意識しているつもりでも、どうしてもアドバイス的な表現になってしまう感じがあり、難しいと感じました。経験を積むことで良くなるのでしょうか。
- 相手の表現や雰囲気をつかむことが難しいと感じました。自分の話す内容の整理が必要だと感じました。
- 「傾聴」に重きを置き、あいづちや相談者を傷つけない適切な言葉選びを考えながら話す・聞くことの難しさを実感。特にロールプレイは時間制限がある中で実施する事も難しかった。
- 個々の経験がいかされていた。

**Q9. オンラインでの講座の科目構成や日程
はいかがでしたか。**



- ・講座がわかりやすく、休憩もタイミングよくさせて頂き、とても良かった。
- ・離島からの参加であること、平日は仕事があり参加できない為、休日でのオンライン開催であったので参加出来た。
- ・科目構成は良いと思います。時間が少し足りない様に感じました。
- ・とても充実していたと思います。私個人では資料をもっと読み込んでおくこと、事前学習の動画を見直ししておけばよかったと反省しました。
- ・事前学習に関する質疑を事前に提出したところであるが、それに対する回答の時間が設定されてなかったのは残念。皆さんの質疑も参考にしたかったとの思いもある。
- ・オンラインだったので参加する事が出来ました。対面ではなかったもので、話すタイミングが少し難しかったです。日程や時間帯は良いと思いました。
- ・オンラインで開催できたことは、大変嬉しく思います。しかし対面で様々な方と対話し、その中から学びを得ることは多いので、やはり対面が一番だと思いました。科目構成・日程に関しましてはとても良かったと思います。
- ・ゆっくりと時間があつたので、仕事をしながらでもどうにか頑張れたと思います。自分のペースで受講出来たので、事前の学習プログラム動画や配布資料を見直し学べ良かったです。オンラインは現場に行かなくても済み、時間の有効利用が出来て助かりました。講義といっても自分達で参加型で、一方的に講義を聴くものではなかったもので、とても有意義な時間として学べたので良かった。

Q10. ピアサポーターとして活動する上で不安はありま



Q11. どのようなフォロー体制があると安心ですか

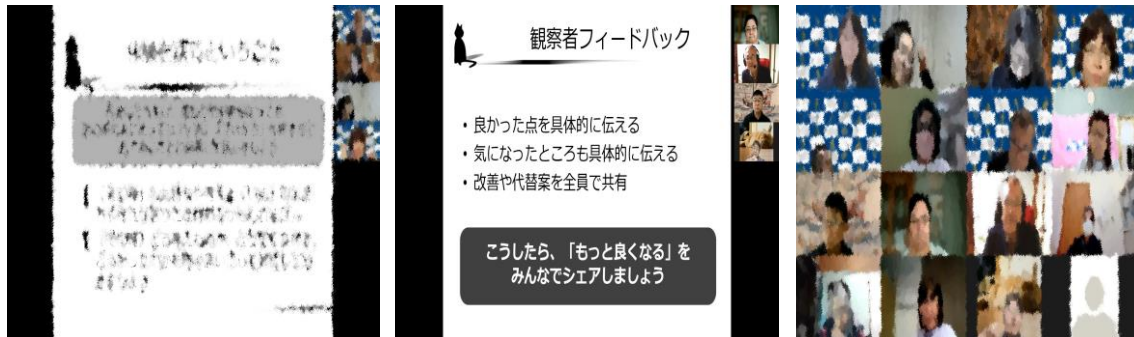
- ・困った時に助言をしてくださる体制があると助かります。
- ・一人での活動はないということなので、活動してみないとわからないのだろうと思う。
- ・サポーター同士の情報交換
- ・実務経験を積まれたサポーターが実際に相談に対応される場に何度か同席させて頂き、勉強させてもらう機会があればと考えている。
- ・独りよがりにならないようにまずは先輩と一緒に活動をして自信をつけて行きたいです。先輩メンバーとの交流もお願いしたいです。
- ・先輩の方々の相談支援があると助かります。
- ・コロナ終息後本島でのサロンの見学。久米島でのサロン立ち上げ。久米島で活動する際の病院への協力要請など。経験豊富なピアサポーターとの情報交換など。
- ・活動前の注意事項等の説明があると安心。

Q12. ご意見・ご感想

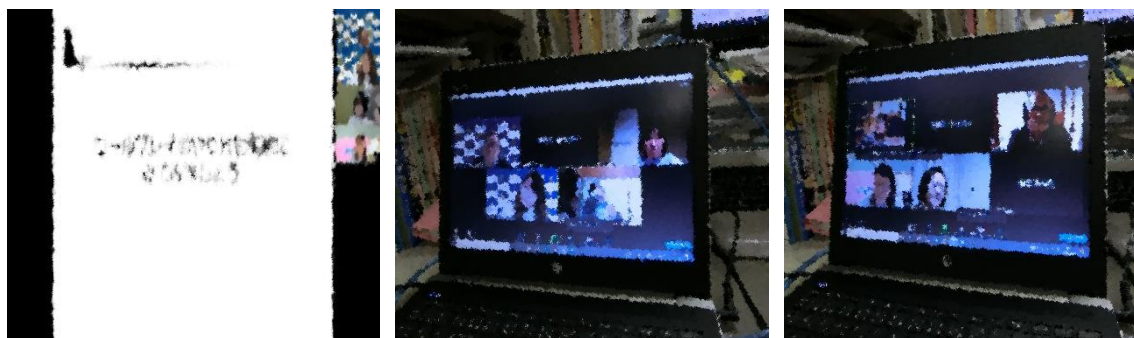
- ・がんピアサポーターの活動を知りませんでした。皆さんの応援や支えで治療をされている患者様がいる事がわかり、素晴らしい活動だと思いました。
- ・とても勉強になりました。がんが良くなり健康でいられることに感謝し、何かお役に立ちたいと思っているところにピアサポーター養成講座のお話を頂きました。他に同じ思いの方はいると思うので、今後も継続して頂き、「仲間」を島でも増やしていきたいです。
- ・今後も継続的に講座の開催をお願いします。
- ・自身の都合の良い場所で参加出来るWEBも良かったのですが、コロナが落ち着けば対面での講座や補習も期待しています。
- ・参加者の体験を聞いたことは非常に良かった。またロールプレイでそれぞれの役柄を経験できたことも良かった。先述したことであるが、事前学習における質疑回答の時間を設けてほしかった。
- ・受講申し込みから、受講終了まで、本当に丁寧に対応して頂きました。とても感謝しております。不安が大きかったのですが、「仲間」という感じがとても実感できたと思っています。泣きたい時には泣いていい。無理なものは無理でいい。気が楽になりました。やってみたいと思いました。
- ・普段は医療者として当事者、ご家族と関わっています。今回はがん患者の家族、遺族として医療者の役割は隅に置き参加いたしました。改めて寄り添う事の難しさ、しかし重要性を感じ取ることができ、大変勉強になったと思います。様々なお立場の方々と今後も交流を深め、自分自身の傾聴、謙虚さを深めていければと思います。

【当日の様子】

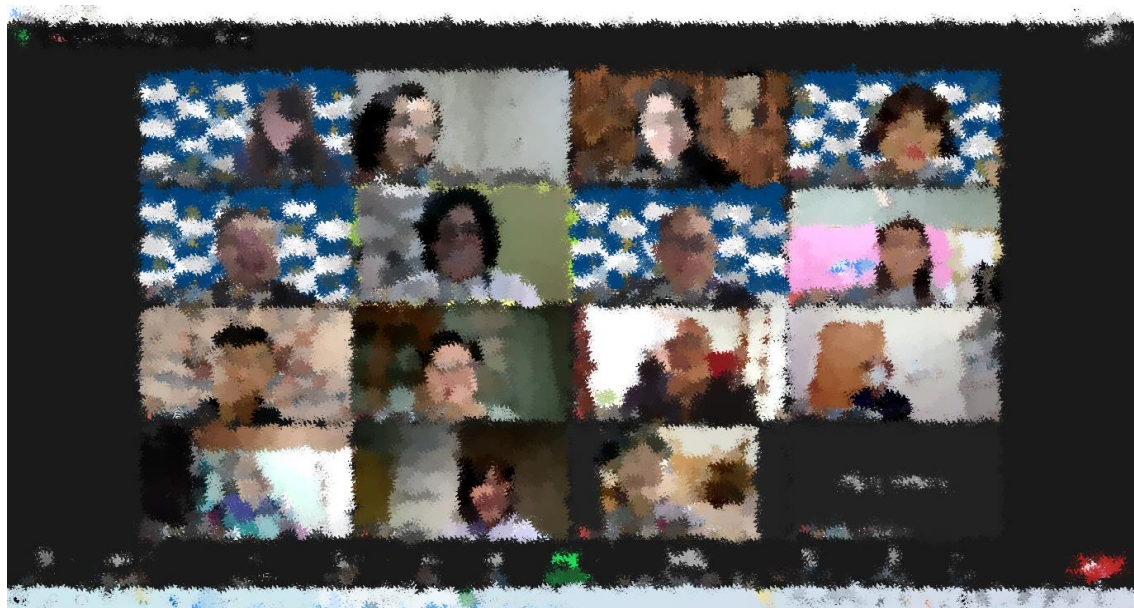
【①：講話】



【②：ロールプレイ】



【受講者・講師】



【案内チラシ】

令和3年度
がんピアサポーター
養成講座

「ピア」とは「仲間」という意味です。
「ピアサポート」は、がんという病気を体験した方やそのご家族が仲間（ピア）として「体験を共有し、ともに考える」同じ立場で聴いたり体験をお話することで、がん患者やその家族を支援する活動のことです。「ピアサポート」を行う人を「ピアサポーター」といいます。養成講座を受講し、あなたの体験を活かしてみませんか？


日時	令和4年1月22日（土）12：40～16：30（受付12：15～）
形式	オンライン（ZOOM）
受講条件 *すべてに該当する方	①がん患者およびがん患者のご家族またはご遺族の方 ②最終治療後2年以上が経過し、現在病状の安定している方 ③事前学習プログラム（講義動画）を視聴できる方 ④講義ならびにロールプレイ（面談技法）に参加出来る方 ⑤受講後は治療や仕事、生活に支障がない範囲で当センターの がんピアサポーター（ボランティア）として登録し活動できる方
内容	事前学習プログラム（講義動画）/ 講話 / ロールプレイ（面談技法）
受講料	無料
申込方法	申込用紙にご記入のうえ、FAX・電子メールにてご提出ください *詳細につきましては、申込後に申込頂いたメールへご連絡致します
申込締切	令和3年11月22日（月）必着

主催 / 沖縄県地域統括相談支援センター（令和3年度 沖縄県委託事業）

*研修内容については裏面をご覧ください⇒

▲チラシ表面

令和3年度
がんピアサポーター
養成講座 受講生募集！

日 程	内 容
事前学習プログラム （講義動画） 11月24日（水） ～ 12月17日（金）	講義動画 ・ピアサポートとは何か？ ・より良いコミュニケーションのための ・ピアサポーターの役割と活動計画 ・希望を大げにすること ・自分を大げにする ・相手の基礎知識と情報提供の注意点 * 講義動画を視聴し、事前課題・授業・質問を提出してください 詳細、詳細見込の方は別添付メールへご案内致します。
養成講座当日 令和4年1月22日（土） 12：45 ～ 16：30 （途中休憩あり） 受付 12：15 から	講話 ・「私たちの同僚ピアサポーター」とは ・事前学習に関する質疑応答 ・受講者自身の経験談を語る ・ロールプレイ（講義） ・ロールプレイ（実技） ・振り返り ・オンライン相談の注意点  NPO法人生活の会「お」 副理事長 新田 美穂

* 講師アドバイザー
 NPO法人生活の会「お」副理事長 新田美穂氏 / がんセンター長 田中 誠人
 * ロールプレイのファシリテーター：仲田ひろ子、中山 直美、高村 友枝、上野 久美子

* 受講後は治療や仕事、生活に支障がない範囲で当センターのがんピアサポーターとして登録し、活動へのご協力を
 宜しくお願ひ致します。
 * 受講後に終了証をお渡ししますが、資格として認定されるものではありません。ご了承下さい。

【お問い合わせ】
 国分市 市民センター内
 沖縄県がん相談支援センター
 がんピアサポーター事務局
 〒903-0215
 国分市 上野300番地
 TEL 098-942-3407
 FAX 098-895-1497
 メール info@gansoudan-ochiwa.jp

▲チラシ裏面

がんピアサロン 開催報告

実施日

- ①令和4年2月15日（火）
- ②令和4年3月15日（火）

開催概要

1. 名称 がんピアサロン
2. 日時 ①令和4年2月15日(火) 14:30 ~ 15:05 (第1回)
②令和4年3月15日(火) 14:30 ~ 15:05 (第2回)
3. 形式 オンライン (ZOOM)
講師・スタッフ：琉球大学病院 大学院セミナー室
4. 対象 がん患者、家族、遺族、医療関係者及び関心のある方
5. 目的 ピアサポーターや他の参加者と語り合うことで不安や気持ちを分かち合い、情報を交換しながら病気に対する不安軽減に繋げる。
他の催し物と併せて開催することでリラックスし、参加者同士が打ち解け、話しやすい雰囲気をつくる。
また、サロンで対応経験を重ねることにより、ピアサポーターの資質を高める。
6. 内容 ①令和4年2月15日(火) 14:30 ~ 15:05
オンラインゆんたく会と併用してがんピアサロンを開催。
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンライン開催。
参加者へは事前に準備する物をお伝えし、参加者のペースに合わせ、ゆったりと自室からヨガ(クールダウン)の体験を行った。

②令和4年3月15日(火) 14:30 ~ 15:05
2/15に引き続き、オンラインゆんたく会と併用してがんピアサロンを開催。呼吸の方法や筋肉の伸ばし方などを画面越しに今回は対話を交え、患者さんごとの体の可動域を確認しながらヨガ体験交流を図った。
7. 課題 ①オンライン開催のため、直接参加者の体に触れて、呼吸や体の痛みへの確認と助言が手薄になったことが課題である。
また体の浮腫みや浅い呼吸に対応する方法など時間をかけ参加された方々がリラックスして、日々の生活が出来るようサポートを今後も続けていくことが課題である。

②2/15の課題を下に、患者さん一人一人の状態を確認しながら、呼吸の浅さや、筋肉の可動域など、画面越しでもお一人ずつ対話を行うことが出来た。しかし対話に時間を要したため、交流の時間を十分にとることが出来ず課題が残ったため、次年度は時間配分に工夫を行っていく。

【当日の様子】



▲①2月15日 参加者の様子



▲②3月15日 参加者の様子

【案内チラシ】

令和3年度沖縄県委託事業

がんピアサロン 参加
無料

リンパの流れを整えて、ココロもカラダもリフレッシュ!

がんについて心配ごとはありませんか? 「がんピアサロン」とは、がん患者さんやそのご家族の方のための交流会です。サロンには自身のがん体験を語ることのできるピア(仲間)サポーターがいます。不安な気持ちや日常のことなど、がんに関するいろいろなことまでピアサポーターにお話ししたり、尋ねてみてください。今回は**ヨガ体験で心と体をタルダウン**と併せて開催します。皆様のご参加お待ちしております!

当日は
フェイスワシト特設
展示や無料相談
ご参加ください!

講師は
ヨーガ療法士
知念 真由美様

日時: 令和4年 **2月15日** (火) 14:30~15:30
 ● ヨーガ体験 14:30~15:00
 ● サロン(フリートーク) 15:00~15:30

場所: 各自施設(Web/ZOOM)

参加費: 無料 **令和4年2月10日(木)締め切り**

※FAXメールにてお申し込みください
 ※お申し込み後ZOOM URLをお知らせ致します。オンラインは参加者が少ないので不安という方はスタッフがお手伝いいたしますのでお気軽にご相談下さい。
 ※3月15日にもサロンを開催致します。詳細はこちら。

主催: 沖縄県地域連携相談支援センター(琉大病院がんセンター内)
 TEL 098-942-3407 FAX 098-895-1497
 メール info@gansoudemkinawa.jp

がんピアサポートに関する意見交換会

参加報告

参加日：令和4年1月28日（金）

令和3年度

沖縄県がんピアサポートに関する意見交換会

日 時 令和4年1月28日(金) 13:30~15:30
形 式 オンライン
出席者 がん診療連携拠点病院及び県内患者会(参加者名簿参照)
増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長)
仲田ひろ子 (沖縄県地域統括相談支援センターピアサポーター)
上地久美子 (沖縄県地域統括相談支援センターピアサポーター)
仲嶺 いずみ (沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)

【講話】

①. 「ピアサポートについて」

講演者：一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会
委託事業委員長 小川 朝生

【意見交換議題】

- ① 医療者のピアサポートに対する認知度について
- ② ピアサポーターの確保について
- ③ オンラインでのがんサロン開催について
- ④ チャット、メール、SNS 使用したピアサポートについて
- ⑤ 希少がんの方へのピアサポートについて

【議題 1】

① 医療者のピアサポートに対する認知度

- ・ サバイバーナースの会 「ピアナース」：上原
医療者側にピアサポートの重要性を伝える際、管理者に伝えても現場（看護師）への情報共有の徹底が不十分である。
- ・ 中部病院：傳道
がん患者との関わりが薄い医療者関係者は「ピアサポーター」の認知度が低い。
- ・ 患者会やいまゆんたく会：会長田盛
医療者へピアサポート（ピアサポーター）がいる事の認識や交流を図りたい。
その方法について講師より伺いたい。
- * 小川講師より
周知方法として、イベントの中で紹介をすることや院内研修にて周知を行う事で、医療者側にも患者の言葉（意見）がフィードバック出来、次へのステップにも繋がる。
- * 佐々木講師より
周知方法にどのような媒体を使用するかが大切。
熊本県の事例では連携パスを活用している。がんサロン（イベントなど）の詳細を一覧で閲覧でき、医療者や患者などへ情報提供を行っている。
北里大学病院（神奈川県）内ではサロン運営委員会を医療者側にも必須とし、月1回の会議を開き、企画運営を行っている。トップダウン方式ではあるが、行動変容が起こり患者、医療者間にとっても周知がなされている。
- * 渡辺講師より
看護師の立場からの助言として、医療者側への周知には組織の壁が考えられる。
自主的な周知方法として、患者のヘルスヘルプグループ（オストミービジター・ストマケア・乳がん）などに協力頂き周知を行っている。

【議題 2】

② ピアサポーターの確保について

- ・ 沖縄県地域統括相談支援センター：事務仲嶺
今年度はオンラインで研修会等を開催しピアサポーターの確保を行った。
しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各拠点病院サロン開催が停止され、登録サポーターを派遣することができない現状。
那覇市立病院サロン担当者が運営方法などの確認のため、サロンへ参加。
今後も拠点でのサロン開催には登録サポーターの派遣を再開する為にも、オンラインや対面での研修会などを開催し、ピアサポーターの確保に努め、各サロンとの連携強

化を図っていきたい。

- 沖縄県地域統括相談支援センター：増田センター長
患者サロンに対して5～6年前より登録サポーターの派遣を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大の観点から現状は派遣が出来ていない。
- 中部病院：傳道
当院においても2ヶ月に1回ほど派遣の依頼を行ってきたが新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1年半サロンの開催を停止している状況である。
現状は外来の待ち時間に患者同士が会話する程度はみられるが、養成講座を受講したピアサポーターが活動できる状況ではない。
- * 小川講師
サポーターの確保には様々なニーズが考えられる。
複合的なグループや同がん種のグループの話聞いてみたいなどのニーズがある。
地域統括が間を取り持ってマッチングするように潤沢に養成されている県など、日本ではまだ整っていない現状である。
対象者（AYA世代等）を絞り、県ぐらいの規模で考えていくのも一つの方法である。
- * 佐々木講師
がん種別で、サポートのニーズが多い。
個人的には全国レベルでネットワークの中に誘導していくことも患者のためにもなるのではと思う。
- 若年性がん患者会 Bestyle：金城
がん種が被る方とのマッチングを心がけサロン参加を誘導している。
患者さんには自分に合った情報を自身で拾って頂くようコーディネートをしている。
- サバイバーナースの会「ピアナース」：上原
北里大学病院内でのがんサロン運営委員会について詳しく知りたい。
- * 佐々木講師より
医療者のがんサロン活動は病院の理念（患者中心の医療）に明記されているため、事業計画を立て、運営委員会が立ち上がり、まずは執行部側に認めてもらい委員（医療関係者）は仕事として参加出来るよう環境整備を整え、興味が薄い人にも意識の改革ができている。
- * 渡辺講師より
第3期がん対策推進基本計画で「ピアサポート」についての明記がある。（講話資料1）
明確に根拠が表記されている物を使用するのもよい。
- やいまゆんたく会：会長田盛
がんピアサポーター養成講座を受講しても、医療者側との連携が取れず、ピアサポート活動の場が島には少ない。どのような方法があるが教示頂きたい。

- * 八重山病院 相談支援センター：眞喜志
新型コロナウイルス感染症や人事異動に伴い、患者会との連携が途絶えている。
また狭い地域故にがん患者同士の交流を控えたいという方もいる。
今回の場にて様々な意見を伺い、今後の参考にしていきたい。
- * 沖縄県地域統括相談支援センター：事務仲嶺
今年度離島からも複数名オンラインで研修会へ参加頂きました。
今後も八重山病院と連携を図り、ピアサポート事業に関する情報交換を行っていく。
- * 沖縄県地域統括相談支援センター：増田センター長
ピアサポーターは有資格ではない為、様々な場所で相談を受けている事がピアサポートを行っていることになる。今後も本島での研修会などへの参加は旅費を提供する。
しかし、昨今のコロナの状況ではWeb開催を検討せざるを得ない。
離島では、患者会員（若い方）のリクルートが課題だと思う。コロナ終息後対面での事業開催を行っていく予定。現状を踏まえ当面はWebイベントへの参加を検討頂きたい。

【議題3】

③ オンラインサロン開催について

- ・ 沖縄県地域統括相談支援センター：事務仲嶺
オンラインサロン参加者には様々な方が参加されます。患者同士での温度を感じた際に、例えば他県でブレイクアウトルームなど活用している事などありましたら紹介頂きたい。
- * 小川講師講師
運営主体としては、病院、地域統括、県と様々である。課題としては操作方法について参加者へどのように伝えたらよいか苦慮している。拠点病院にきてもらい、オンラインで繋ぎ研修などを開いている県もある。
またネットに強いAYA世代や若い方は操作に慣れているため、物理的な問題などは少なく、テーマ（仕事や人間関係など）を設けて開催している所は幾つかある。
- * 佐々木講師より
 - (1) 周知方法としてSNSで大々的に発信。しかし参加者（院内がバーと院外がバー）が二極化する問題も発生する。その為がん種ごとにブレイクアウトルームを活用し、運営を行っている。
 - (2) 個人情報の確認が必要
事前登録制とし、事前にどのようながん種なのか情報収集を行い、ブレイクアウトルームの活用を図っている。
 - (3) 既存の団体（がんサロン外部委員）の活用

高齢者向けオンライン用のレクチャーを行い、患者同士の横の繋がりを図っている。

- 沖縄県地域統括相談支援センター：増田センター長
小川講師のアドバイスにあった、拠点にきてもらいオンラインを繋ぐ方法について詳しく伺いたい。
- * 小川講師
オンラインサロンの紹介県は長崎での事例。
養成講座を開催する際にコロナの影響により、ネット環境がない方がおられた為、拠点病院に集まってもらい、オンラインビデオを繋ぎ（ハイブリット）方式を行った。
- * 佐々木講師
北里大学病院では、病院内患者と外部のピアサポーターとオンラインで繋ぎ、面談を行うことを計画中。
- 沖縄県地域統括相談支援センター：仲嶺
現在オンラインでの開催をしている団体（サバイバーナースの会・若年がん患者会 Bestyle）より、活動内容などご紹介頂きたい。
- サバイバーナースの会「ピアナース」：上原
運営側で参加出来そうな方を事前に選びその方へ情報提供を行い、3～4人程で開催。またチラシを作成し、通院患者へ少しづつ声を掛け、配っているため顔見知りの方が参加している状況。
- 若年性がん患者会 Bestyle：金城
周知方法として、Facebook やメールを活用。
新しい患者さんにたくさん話してもらえる環境づくりをし、参加者が増えた際はブレイクアウトルームを活用し、事前に情報収集を行った上でサロン開催を検討している。
- パンキャンジャパン沖縄（膵臓がん患者会）：島袋
今年度は数回オンラインにて開催をしましたが、高齢の方が通えなくなってしまい、ハイブリット形式でも開催をした。しかし司会進行や視線をどちらに向けたらよいか苦労した。他の団体や講師より助言を頂きたい。
- * 佐々木講師
司会進行とオンライン担当（操作）など役割分担を行わないと運営は厳しい。
視線については、最後だけ参加者皆の一体感を出せるよう工夫が必要。
- サバイバーナースの会「ピアナース」：上原
対面だと表情を確認することは可能だが、オンラインでは表情をつかみづらいことがあり、その際はブレイクアウトルームの活用などあると思います。またサロン終了後にフォローが必要な方へのアプローチ方法など伺いたい。
- * 佐々木講師
パニックになっている患者さんへの事例の対応として、ファシリテーターでの振り返りの際に、看護師と情報共有を行い、患者さんへフォローの連絡を入れています。

対応についてマニュアル化や、ファシリテーター（気付き）の人数を増やし、参加者に対して目を配らせる体制を整えることが必要である。

【議題 4】

④ チャット、メール、SNS 使用したピアサポートについて

- ・ 若年性がん患者会 Bestyle：金城
SNS の活用方法として Facebook はオフィシャルであり、若い世代は Instagram や Twitter を使用している方が多い為、メールで返信するよりは line を使用の方が早く伝達出来る。今後は line のアカウントを作成し周知していきたい。
- * 小川講師
SNS 活用には病院が絡むと個人情報やネットを伴うセキュリティー問題が発生する為ハードルを越えられない医療機関が多いように思う。
運用方法について、メールや SNS は AYA 世代を中心に活用されているが、対応（メッセージへの返答）をしなければピアサポート側のメンタル的な負担が大きいことが懸念される。
- * 佐々木講師
SNS は 24 時間送信してくる患者も想定できる。一生懸命なピアサポーターの方ほど、答えてあげたいと思うこともある。
バウンダリ（自分を守ることが依頼者を守る）を大切にし、対応に対してはトレーニングが必要だと思う。
- ・ 若年性がん患者会 Bestyle：金城
自分のペースでメール返信やサロン（ZOOM）の様子など掲載している。
特に活動報告については SNS では行っていない。
- ・ ガイバーナースの会 Bestyle：上原
ピアサポーターが定期的に集まり、情報共有を図る機会などについて伺いたい。
- * 小川講師
対面と併用をしている事例がある。例えば AYA 世代では石川県でオンラインでのイベントを開催している。しかしオンラインでは表情の読み取りづらさや、言葉がきつく出てしまうこともあり、全国的に開催方法が定まっておらず、試行錯誤している状況。
- * 佐々木講師
個人的にはピアサポーター連合のような仕組みはどうか。またサポーターの振り返りの場を医療者と連携を図り、ピアサポーターが辛い気持ちを持ち帰らない仕組みが大切だと思う。増田センター長が患者会に参加して交流を図っているお話が聞かれましたが、面前になった際は必要だと思う。

【議題 5】

⑤ 希少がんの方へのピアサポートについて

- ・ 那覇市立病院相談支援センター：仲宗根
希少がんのピアサポートが難しく、AYA 研の line 版内で患者さんへ伝えられる情報を提供している。
 - ・ 沖縄県地域統括相談支援センター：仲田ピアサポーター
琉大病院相談支援センターと連携、情報共有を図り患者さんを繋いでいる。
 - ・ 沖縄県地域統括相談支援センター：増田センター長
がん種が異なっても、患者さんに合わせた質問にお答え出来るよう、ピアサポートの養成（研修）を行い、情報の検索や患者会を紹介することは大原則論である。また医療的なことは全て琉大病院へ紹介するようになっているのはコンセンサスできている。
本土への治療を希望する患者さんには、都道府県拠点病院のがん相談支援センターで情報の検索ができることも大前提である。
- * 小川講師
他のがん種も交えたグループを複合的に使い分けしている方（患者など）もおいでで、支援者は広く情報をお伝えする事が大切である。

【増田センター長より情報提供】

- (1) 2022 年度版 おきなわがんサポートハンドブックでは、がん種ごとの対応病院を掲載し、2022. 4. 1 には全ての病院へ発送を行う予定。
具体的な内容として、希少がんは全て琉大病院へ紹介。また小児がんは全てこども医療センターと琉大病院へ紹介としている。
- (2) 難治がんに関しては、うちな〜がんネットがんじゅうのホームページより、沖縄県におけるがん診療を行っている医療施設の情報を確認する事ができる。
15 のがん種に関して、手術と薬物療法についても明記し、放射線治療装置がないことに関して、説明文が記載されていることを情報提供する。

がんピアサポーター派遣事業

第5回 沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書

名 称	ゆんたく会（がんピアサロン）
参加目的	沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年1月4日（火）14：00～16：00 場 所 琉球大学病院 大学院セミナー室
派遣者	がんピアサポーター 1名
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター事務補佐 1名
主 催	琉球大学病院 がん相談支援センター
当日の様子	<p>・14：00より、フリートークにてゆんたく会を開催予定。 ピアサポーターは参加者がみえるまで待機とした。 年始より新型コロナウイルス感染者数が増えている事を鑑み、開始より遅れて2名の参加者がお見えになったが、安全を期す為、今回のゆんたく会は閉会とした。</p> <p>*参加者（患者2名）・看護婦2名・琉大相談員1名</p>



がんピアサポーター派遣事業

第6回 沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書

名称	ゆんたく会（がんピアサロン）
参加目的	沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣し活動の場の創出を図る。
日程	日時 令和4年3月1日（火）14：00～16：00 場所 琉球大学病院 大学院セミナー室
派遣者	がんピアサポーター 1名
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター事務補佐 1名
主催	琉球大学病院 がん相談支援センター
当日の様子	<p>*14：00より「自分で出来るリンパドレナージ」 講師：琉大病院（緩和ケア看護師/棚原陽子）</p> <ul style="list-style-type: none">・リンパ浮腫は、予防や早期発見・早期治療により悪化させないための自己管理が大切。講話を通して、マッサージの方法や大切にすることや注意点について、実践を交えながら講話を行った。・地肌に手を当て力は入れず、血液の流れを感じながら摩ることが良い。血流が滞ってしまうと日常生活にも支障が出てしまうので、体を動かすことや摩る事を毎日意識して行う事は良い。また摩る（マッサージ）ことでがん細胞がリンパ管をとおして、位置を移動する事があるため、むやみに摩る行為はせず、主治医と相談するよう助言があった。・15：00よりフリートーク <p>①治療について（気を付けていること） ②病をオープンにしたいくない人へのサポートについて ③サロンへの要望についてなど</p> <ul style="list-style-type: none">・がんピアサポーター自身の体験を下に、参加者と情報共有を図る。辛い時は当事者（がんピアサポーター）や看護師に気持ちを伝えたりし、前向きな気持ちで毎日を過ごすことを大切にし、今を乗り越えている体験談が聞かれた。 <p>*参加者（患者2名）・看護婦3名・琉大相談員1名</p>



がんピアサポーター派遣事業

第7回 オンラインサロン報告書

名 称	オンラインゆんたく会（がんピアサロン）
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年1月18（火）14：30～15：30 場 所 各自施設 ピアサポーター：琉球大学病院 大学院セミナー室
派遣者	がんピアサポーター 1名
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・14：30よりオンラインゆんたく会開始 ・始めに会の約束事及びオンライン時の注意事項、守秘義務について了解を得た。 ・以前にも参加された方のため自己紹介は割愛し交流の時間とした。 ・交流の内容として、今年の目標や気持ちが落ち込んだ時にしている対処方法などについて交流を図った。 <p>1人目の方は、琉大がかかりつけ医なので、「病院が（新地）移転する前には、完治出来るようにしたい」と話し、毎日の服薬、血圧、体温状況など、携帯を活用し記録を残し、治療に役立っている事や、土（花や食物）を触り、気持ちがコントロール出来るよう努力している話が聞かれた。</p> <p>2人目の方は自身の体調管理をしっかりする事で、母親の介護が出来ると話してくれた。参加者より意見として、オンライン上で出来る簡単なストレッチ方法や治療について、専門の方の話を伺う等の提案が出され、今後検討していく事をお伝えしたまた、まん延防止が発令されて、外出もままならないが、オンラインで皆と繋がる事が出来るのは安心との意見も聞かれた。次回の案内を行い15：30に会を終えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が退室後、那覇市立病院サロン担当者との意見交換では、オンラインでのサロン運営方法（那覇市立が進行等を琉大サポーターがアドバイスを挟みながら進行する等）今後のサロン運営について情報共有を図った。 <p>*参加者（患者様2名・那覇市立病院サロン担当者1名）</p>



がんピアサポーター派遣事業

第8回 オンラインサロン報告書

名 称	オンラインゆんたく会 (がんピアサロン)
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年2月15(火) 14:30~15:40 場 所 各自施設 ピアサポーター：琉球大学病院 大学院セミナー室
派遣者	がんピアサポーター 1名 (上地久美子)
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・14:30よりオンライン時の注意事項(約束事等)、守秘義務について了解を得て、会を進行。各自自己紹介を行った後、ヨガ体験へと移った。 ・14:35~15:05着座を基本としたヨガ体験では、画面越しに講師が参加者の様子を確認しながら進め、参加した皆さんも自身の体調に合わせ、リラックスした状態でヨガ体験を行った。がん治療をしている中で体との対話(運動やストレッチなど)の時間をつくるのがなかなかできていないと話す方もおり、今回のオンラインゆんたく会で心と体のクールダウンを図っている様子が伺えた。 ・15:05からの交流の時間では、足の浮腫みを解消する方法の質問があがり、講師から血流が良くなる(足を温めたり、深呼吸)方法などのアドバイスが聞かれた。また講師自身もがんサバイバーであり、自身が経験したことを基に参加者へ声を掛けながら交流を図った。 ・新型コロナウイルス感染症によるまん延防止措置が発令され、一同に介して交流を行う事ができない状況であった。しかし今回のように画面越し(オンライン)でも皆と繋がる事が出来るのは安心との意見も聞かれた。次回の案内(ヨガ体験第2弾)を行い、15:40に会を終えた。 ・参加者がZOOM退室後、那覇市立病院サロン担当者との意見交換では、次年度より那覇市立でもオンラインでのサロン開催の準備を進めている旨報告が聞かれ、今後のサロン運営について情報共有を図った。 <p>*参加者(患者様3名・那覇市立病院サロン担当者1名)</p>



がんピアサポーター派遣事業

第9回 オンラインサロン報告書

名 称	第7回 オンラインゆんたく会 (がんピアサロン)
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年3月15(火) 15:05~15:40 (14:30~がんピアサロン/15:05~オンラインゆんたく会) 場 所 各自施設(患者) / 琉球大学病院大学院セミナー室 (講師・ピアサポーター)
派遣者	がんピアサポーター 1名
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・14:30 よりオンラインでの注意事項(約束事等)、守秘義務について了解を得て、会を進行。2月開催時の参加者と同様のため、自己紹介を割愛しヨガ体験へと移った。 ・14:30~15:05 着座を基本としたヨガ体験では、画面越しに講師が参加者の様子を確認しながら進め、参加した皆さんも自身の体調に合わせて、リラックスした状態で呼吸の仕方や筋肉の伸ばし方など対話を交え、参加者ごとの体の可動域を確認しながらヨガ体験を行った。 ・15:05 からの交流の時間では、2/14 開催のヨガ体験の感想や、呼吸の癖(口呼吸を鼻呼吸へ意識する)への対処方法について、交流を行った。治療のことだけでなく、ヨガも日常の生活に取り入れ気持ちりをリラックスして過ごすことで、迷いや不安の解消にもつながる話があがった。また那覇市立病院サロン担当者より、次年度は隔月でオンラインサロン(ゆんたく会)開催予定との情報提供があり、今回参加の方へも案内するとのことであった。 ・次年度も当センターより各イベントの案内について周知を行い、会を終えた。 <p>*参加者(患者様2名・那覇市立病院サロン担当者2名)</p>

